

【議題】「男女共同参画を地域で進めるためには～フォーラムと連携してできること～」

【説明】

第4期市民運営協議会は「男女共同参画センターと地域との連携」を一貫としたテーマとし、1回ごとに具体的な検討課題を取り上げて議論してきました。最終回の今回は、委員の日々の活動から見える課題や、連携の具体的なアイデアを伺いました。

【意見交換の概要】

- ① 無料の地域情報紙を発行する会社に勤務しているので、紙面の提供ならできる。小学生が身近な情報を集め、時短社員として働く母たちが編集を行う「子ども版」を企画した際には、制作側、広告主、読者等それぞれにメリットがあり好評だった。たとえばフォーラムの利用者で「働きたいけどまずは短時間で就労してみたい」と考える人などに、インターンシップの場、またつながりを作る場として活用できるのではないかな。
- ② 施設（建物）を持っているので場所の提供ができる。子どもや大人が活躍できる場がほしい。ただ、なかなか具体的なアイデアが出なくて困っている。連休や夏休みなどは親子が煮詰まる可能性が高く、外出（息抜き）ができる場が必要。しかしそれほどどこでもいいわけではなく、「安心して」行ける場でなければならない。フォーラムと何かできるとよいが。
- ③ 居場所づくりをやっている。小・中・高校生、大人が参加しており、多い時で150～200人。意外だったのは夜6時から小さな子を連れた母たちが多数参加すること。子どもを遊ばせながら母同士がゆったり話せる「母たちの居場所」になっている。地域とのつながりを作るといふときに「フォーラムに来てもらいたい」というより、「フォーラムが地域に出ていく」ほうが先ではないかな。大げさなことでなく、たとえば町内の掃除でもよい。顔が見えるということは、言いやすい・聞きやすいということ。安心して関われるということ。
- ④ 聴覚障がいを持つ母たちとまちをつなぐ活動をしている。聞こえないママたちは自分だけでは外出しにくい。そういう人の存在をぜひ知ってほしい。たとえば戸塚区の絵本のイベントなどでも「参加していいのかな？」と心配になる。わざわざ新しく何かを作るといふより、今あるものの中で工夫して、聞こえないママも参加しやすくなれば。聞こえない・聞こえるに関わらず母親同士で一緒に過ごせば、共通の悩みなども共有できるのではないかな。
- ⑤ 自分たちの活動を地域に広げられるよう、職場では常に地域とのつながり作りを意識している。商店街や町内会とふだんからつながっておくと、「顔の見える関係」ができていく。「何かを一緒に企画する・実施する」ことは、つながりができていけば、かなりスムーズに進められる。

【特記事項】

今期最後の協議会であったため、4回を振り返ってどうだったか、各委員に伺いました。

「身近にある施設とは思っていたが、委員になることで具体的にかかわりができよかった」

「委員の依頼をもらい、参加できて嬉しく思う。今後はフォーラムのことを周りに伝えていくのも自分の役目だと感じる」

「他の委員と知り合えてよかった。仕事で行う取材とは違い、地域とのかかわりという点で今後もこのような機会があれば飛び込みたい」

「依頼を受け、センターに来て初めて「男性もいるのだ」と知った。それほど、この施設について情報が少なかった。自分の周囲でもフォーラムはまだまだ知られていない。自分が周りに知らせていこうと思う」

「自分の職場でもこの会と同様の会があり、自分は運営側にいる。しかし今回委員の側に立ち、各委員の話聞き、情報交換をすることで、自分自身がとても勉強になった」

さまざまな活動・立場からのご意見をありがとうございました。今後ともつながりをつけていけたらと思いますので、よろしく願いいたします（男女共同参画センター横浜）